GX形への関心高く

製造現場見学会を開催

日本ダクタイル鉄管協会関西支部

日本ダクタイル鉄管協会関西支部（山田豊美支部長）は13日と19日の2回、栗本鐵工所の堺工場と住吉工場で、新耐震管GX形ダクタイル鉄管とGX形バルブの製造現場の見学会を行った。大阪府下の水道事業体から2日間にわたり約50人が参加した。

山田支部長

吉永工場長

堺工場でGX形管の製造工程を見学

13日の堺工場では、はじめに山田支部長が「南海トラフ地震等に備えて管路の耐震化を進められている事業体も多いが、最新の耐震管であるGX形管とGX形バルブの製造工程を見ていただき、採用の参考としていただきたい」とあいさつするとともに、GX形管の特長―長寿命、施工性、低コストーを説明した。

同工場の吉永泰治工場長も「一貫生産の現場を見ていただき、有意義な見学としてください」とあいさつし、工場の概要を紹介した。

同工場では小口径（50～250ミリ）のダクタイル鉄管T形、K形、NS形、GX形、S50形の直管を専門に、年間約4万トン、35万本（ガス管含む）生産している。見学会では溶湯出湯の様子から、水冷式金型遠心力鋳造機による鋳造、焼鈍、加工、内面ライニング、シールコート塗装などの一連の製造工程を見学した。

バルブを製造している住吉工場では、工場の概要説明と製品説明を聞いた後、GX形ソフトシール仕切弁等の組立、溶射、塗装などの工程を見学した。

見学者からはGX形管の採用状況や300ミリの規格化の見通し、GX形管を採用した場合のポリエチレンスリーブの必要性などに関する質問が相次ぎ、関心の高さを窺わせた。

維持管理で講習会

水中ロボ清掃の解説も

静岡県東部健康福祉センター

簾内課長

佐々木所長

中里理事

静岡県東部健康福祉センターは7日、平成24年度水道維持管理講習会を開いた。管轄内の簡易水道、専用水道の技術管理者など160人に対し、同センターから施設維持管理や事務手続きなどについて説明があったほか、フジ地中情報静岡営業所の佐々木尉浩所長が漏水調査や東日本大震災における応援事例などについて、また日本水中ロボット調査清掃協会の中里聡理事（中里建設代表取締役）が水中ロボットによる配水池内部の調査・清掃業務について紹介した。

講習会に先立ち、同センター生活環境課の簾内常行課長が「東日本大震災ではライフラインの重要性が改めて実感された。東海地震が予測される中、県でも応急給水受援計画を策定中であり、皆さまにおいても、危機管理体制の強化をお願いしたい」などと呼びかけた。

また、同センターは昨年の水道法改正により、水質検査機関と書面での直接契約を締結することになったことや、4月から専用水道の事務権限が市と函南町に委譲されることなどについて改めて注意を喚起した。

佐々木所長は自社の漏水調査工法の工程を説明。また災害対応事例として、東日本大震災時に南三陸町で給水支援活動、漏水調査を行ったことなどを報告。当時海外製の海水淡水化装置を設置し給水を行ったものの「ミネラル不足などからかおいしくなかった」として、再度海水を混ぜるなどして味を調えたなどと、実際の経験を踏まえた苦労や教訓を述べた。

中里理事は水中ロボットによる配水池内部の清掃業務について紹介。「大きな堆積物は回収できないが、断水や水を抜くことなく清掃できるため、手間もかからず、飲料水を無駄にすることもない」などとロボット清掃の利点を解説。設備の状況把握と早期対応にも活用してほしいと、実際にロボットを見せながら会場に呼びかけた。

震災の教訓改めて

建築研究所が講演会

3月8日　東京・有楽町で

建築研究所（坂本雄三理事長）は3月8日、東京・千代田区の有楽町朝日ホールで「大震災の教訓を改めて考える」と題する講演会を開催する。入場料は無料（入場は先着順）。

詳細は次の通り。

【日時】3月8日　10時半～16時45分

【会場】有楽町朝日ホール（東京・有楽町マリオン11階、〒100－0006　東京都千代田区有楽町2－5－1）

【プログラム】▽特別講演「想定外の災害を起こさないための哲学」関西大学・河田惠昭理事・社会安全研究センター長・教授▽建築研究所講演①「東日本大震災後の住宅復興の取組とその課題」住宅・都市研究グループ・岩田司上席研究員②「安政江戸地震による建造物被災分布の特徴」都司嘉宣特別客員研究員③「住宅・建築のさらなる省エネルギー化」環境研究グループ・桑沢保夫上席研究員④「大規模木造建築物の防火対策」防火研究グループ・萩原一郎上席研究員⑤「今後期待される構造設計の方向性」構造研究グループ・福山洋グループ長

【問い合わせ先】独立行政法人建築研究所企画調査課　安部氏＝電話029（879）0632、池田氏＝同0638、Eメールkikaku@kenken.go.jp

二代目天使が水団連を訪問

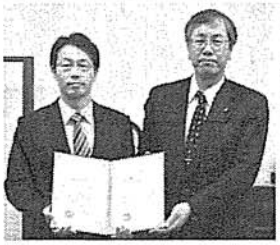
坂本専務理事と記念撮影

二代目「水の天使」の横山林沙さんが8日、日本水道工業団体連合会の事務所を訪れ、坂本弘道専務理事と面会した。

横山さんは「初代の酒井さんの活躍の実績があるので緊張しているが、身を引き締めて負けずに頑張りたい。まだまだ未熟でこれから知識を身につけていく身だが、日本の素晴らしい技術を世界に広め、水を大切にしてもらう一助になれれば」と抱負を語った。

坂本専務理事は「さまざま苦労もあるだろうが、上下水道のツケが若い世代に回らないよう、華やかに業界をPRしてもらえれば」とエールを送った。

佐倉代表取締役は「長野は自然環境が豊かな土地だが、消毒者の水源や地下水問題などへの関心は高い。今後も高い精度管理を確立の上、業務を行っていきたい」と述べた。これに対し、ちろんのこと、緊急時にいかに対応できるかこそが重要であるとし、緊急管理センターを設置、24時間・365日応対を可能としている。


認定証を受け取る佐倉代表取締役（左）